

本殿

ここが鶴岡八幡宮で最も神聖な場所です。武士や国家の守護神である八幡神とされる応神天皇が、その母である神功皇后および比売神と共に祀られています。山の麓にあった以前の本殿が、火災により焼失してから山腹に再建された 1191 年以来、聖域はここに位置しています。現在の建物は 1828 年にまで遡るもので、国の重要文化財に指定されています。御本殿の建物は、本殿および幣殿、拝殿から成っており、江戸期（1603 年-1867 年）の武家に崇敬された神社の多くと同様の建築様式、流権現造の一つ屋根の下に、それらが纏まっています。本殿へは楼門から入る事ができ、その楼門には悪霊から聖域を守る二体の守護神の像が置かれています。本殿の西側の廻廊には、鶴岡八幡宮ゆかりの文書や武具、その他の歴史的遺物などが展示されている宝物殿があります。同様に本殿と宝物殿の間には、応神天皇の伝説的な忠臣であった武内宿禰が、健康長寿の神として祀られている武内社があります。